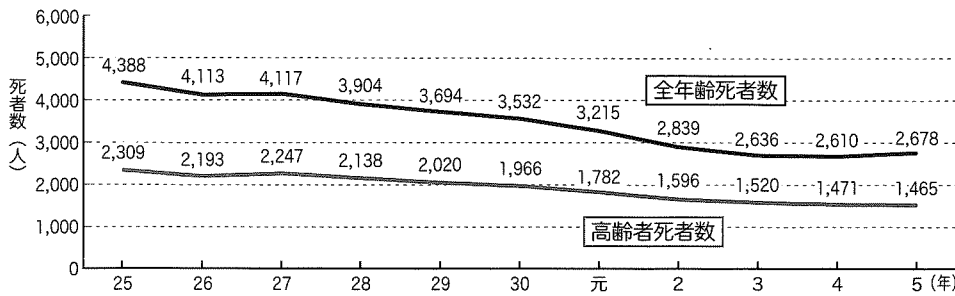


安全衛生トピックス

交通事故死者数 8年ぶりに増加

— 死者数 2千678人 負傷者 36万人 —

図表1 高齢者(65歳以上)死者数の推移：平成25年～令和5年



図表2 令和5年中の都道府県別交通事故死者数

	R5年中(人)	R4年中(人)	増減数(人)		R5年中(人)	R4年中(人)	増減数(人)		R5年中(人)	R4年中(人)	増減数(人)
北海道	131	115	16	千葉県	127	124	3	滋賀県	43	38	5
青森県	45	31	14	神奈川県	115	113	2	京都府	59	45	14
岩手県	35	37	-2	新潟県	55	61	-6	大阪府	148	141	7
宮城県	47	37	10	山梨県	29	25	4	兵庫県	103	120	-17
秋田県	32	33	-1	長野県	42	46	-4	奈良県	26	29	-3
山形県	34	26	8	静岡県	70	83	-13	和歌山県	31	24	7
福島県	55	47	8	富山県	31	34	-3	鳥取県	14	14	0
東京都	136	132	4	石川県	28	22	6	島根県	22	16	6
茨城県	93	91	2	福井県	20	27	-7	岡山県	49	74	-25
栃木県	59	50	9	岐阜県	50	75	-25	広島県	78	74	4
群馬県	47	47	0	愛知県	145	137	8	山口県	35	31	4
埼玉県	122	104	18	三重県	66	60	6	徳島県	28	23	5
								香川県	33	35	-2
								愛媛県	43	44	-1
								高知県	23	26	-3
								福岡県	103	75	28
								佐賀県	13	23	-10
								長崎県	36	28	8
								熊本県	37	53	-16
								大分県	32	32	0
								宮崎県	30	32	-2
								鹿児島県	40	42	-2
								沖縄県	38	34	4
								合計	2,678	2,610	68

令和5年中の交通事故による死者数は2千678人(前年比68人増、2.6%増)で、前年に続き3000人を下回ったものの、8年ぶりに増加に転じました(図表1)。

交通事故死者数は、1970年(昭和45年)に1万6765人の過去最多を記録しましたが、その後減少傾向が続いていました。

一方、65歳以上の高齢者死者数は、前年よりも6人少ない1千465人となったものの、交通事故死者数全体に占める割合は54.7%と半数以上を占めています(図表1)。

○都道府県別の交通事故死者数

死者数が最も多かったのは大阪府(148人)で、前年から7人増加して全国ワースト1となっています。次いで愛知県(145人)、東京都(136人)、北海道(131人)、千葉県(127人)、埼玉県(122人)となっています。一方、最も少なかったのは佐賀県(13人)で、鳥取県(14人)、福井県(20人)、島根県(22人)と続いていました(図表2)。

○交通事故件数・負傷者数も増加

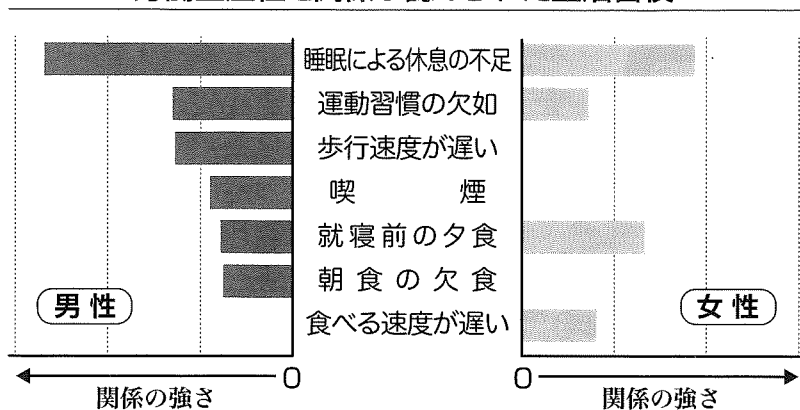
交通事故件数は19年ぶりに増加し、前年比2.4%増の30万7911件、負傷者数も同2.4%増の36万5027人でした。

(資料・引用「人と車」全日本交通安全協会 24年1月)

「睡眠不足」で労働生産性が低下

— 筑波大が勤労者の生活習慣を調査 —

労働生産性と関係が認められた生活習慣



勤労者の生活習慣と労働生産性の関係を分析した結果、男女ともに睡眠による休息の不足が労働生産性の低下に最も強く関係し、運動習慣の欠如や就寝前の夕食なども関連していることが、筑波大の研究チームの調査でわかりました。▼チームは、日本のある企業に勤める21～69歳の従業員約1万2千人を対象に、健康診断の質

問票や診療報酬明細書、労働生産性に関する自己評価のデータを基に生活習慣と労働生産性の関係を分析したものです。

病気による影響は除き、生活習慣では喫煙や運動、食事、飲酒、睡眠に関する11項目を検討対象としました。

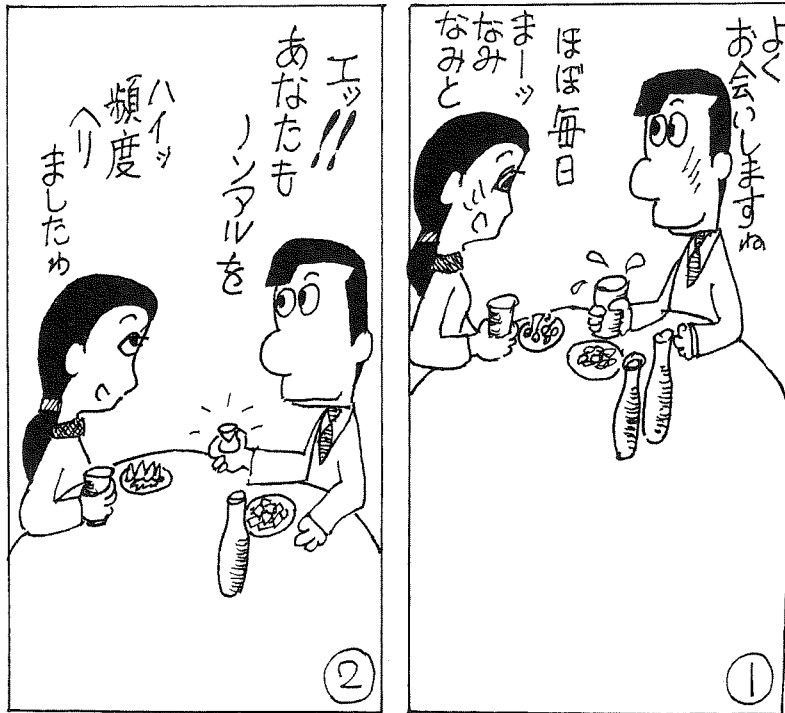
▼その結果、労働生産性の低下と最も関連の強い生活習慣は、男女ともに睡眠による休息の不足でした。男性では次いで運動習慣の欠如や歩行速度、喫煙、就寝前の夕食、朝食の欠食が労働生産性低下に関連していました。女性では睡眠に次いで就寝前の夕食や食べる速度、運動習慣の欠如が関連していました(上図)。

男女とも、飲酒の頻度・量は労働生産性の低下に関係はなく、女性よりも男性の方がより多くの生活習慣が関係していることもわかりました。▼チームの武田教授(公衆衛生学)は「企業従業員の労働生産性改善に向けた取り組みとして、睡眠の改善や運動習慣の定着、適切な時間の夕食摂取について健康教育を行ったり、職場環境を整備したりすることが重要だ」と話しています。

(資料・引用「東京」23・12・27)

「ノンアル」が飲酒減に効果あり

— 男性は飲酒量で 女性は飲酒頻度で —



筑波大学の吉本准教授らは、ノンアルコール飲料利用は男女ともに飲酒量を低減させる効果があると報告しています。

男女別では、研究期間全体の平均飲酒量は男性で約25%、女性で約18%減少したといえます。また男性は飲酒日の飲酒量が減り、女性は飲酒頻度が減ることが分かりました。

吉本准教授らは、過剰なアルコール摂取による健康被害に対し、ノンアルコール飲用の有効性が科学的に示されたとともに、性差を踏まえた対策が求められるとしています。

調査は、アルコール依存症患者らを除く20歳以上の123人を介入群と対象群に分け、介入群にはビール・カクテルテイスト22商品の中から自由に選んだノンアルコール飲料を12週間提供しました。

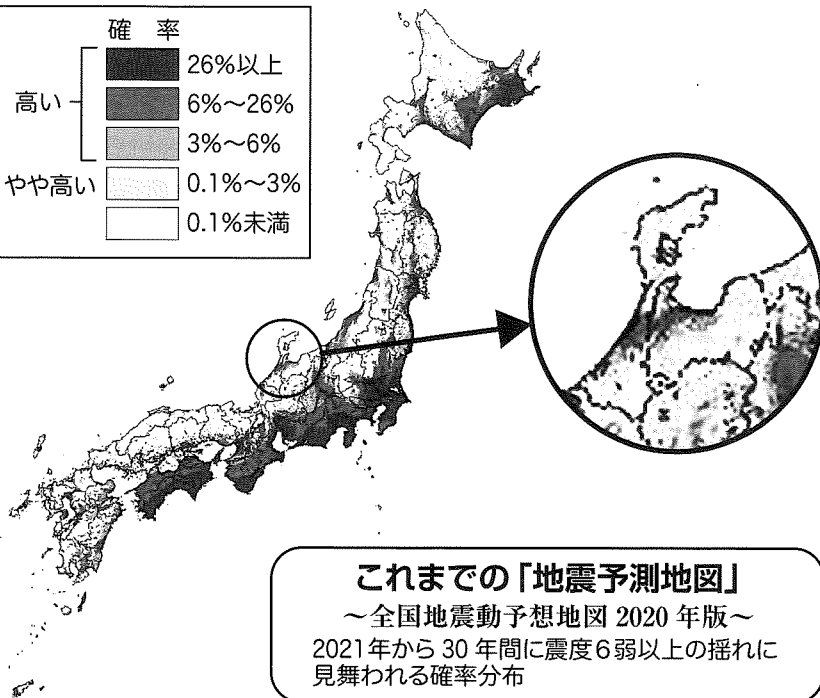
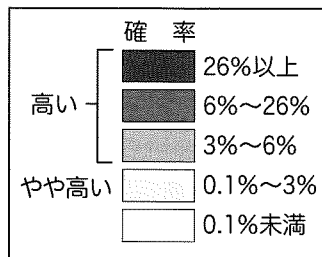
両群ともアルコール飲料入手や飲酒は制限せず、飲酒量の推移を観察したところ、対象群と比較して介入群が男女ともに飲酒量の低減が大きく、提供終了から8週間後もその効果が持続していました。全体の平均飲酒量で見ると、介入群の飲酒量減少率は男性で対象群の6・3倍、女性で2・2倍高くなっていました。

飲酒頻度は主に女性で減少が見られ、平均飲酒日数は女性が4週間で5日、男性は2日減っていました。また、飲酒日の飲酒量については男性のみ平均約16%減少していました。

(引用・詳細「日刊工業」24・01・25ほか)

「令和6年能登半島地震」難しい地震予測

— 安全と誤解・油断が大被害を —



これまでの「地震予測地図」

～全国地震動予想地図 2020年版～
2021年から30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率分布

「令和6年能登半島地震」で最大震度7を観測し、死者230人、倒壊家屋2万5千棟となった石川県は、国の地震調査委員会の「全国地震動予測地図」では、2020年から30年間に震度6弱以上の揺れが起きる確率は県の大部分で「0.1%～3%未満」とされていました。

県は30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布から、「石川県の地震リスクは小さいと言えます」等と、県が企業誘致をPRするホームページで予測地図の石川県部分を示し、安全性を強調していました。

2016年に「熊本地震」が起きた熊本県、18年に「北海道胆振東部地震」があった北海道も同様に低い確率の予測地図を企業向けPRに使っていました。石川県の担当者は「太平洋側に比べると確率は低く、リスクは低いと思って示していた。国の出している情報なので信頼感もあったが」と話しています。

予測地図は、02年から地震調査委が発表し、20年版が最新でした。30年以内に震度6弱以上の揺れが起きる確率を色別に示したものが代表的で、複数の種類があります。震度6弱以上の確率の地図では、南海トラフ沿いや首都圏の大部分は「26%以上」とされています。

地震の確率が低いとされている地域でも、能登半島地震など同様の大地震が発生することを想定して対策を講じておくことが必要です。

（資料・引用「東京」24・01・10ほか）

海外の事故・災害から

…2023年12月…

- ▼フィリピン ミンダナオ島沖 M7.6の地震が発生し、最大64cmの津波。日本にも20〜40cmの津波。死者不明3人、負傷4人。
- ▼インドネシア スマトラ マラピ火山の大規模噴火で登山者ら巻き込まれる。死者不明23人、負傷12人。
- ▼セイシェル諸島 マヘ島の工業地区での爆発で建物がほぼ損壊し100人以上負傷。同時期に大雨による洪水が発生し、全土に非常事態宣言。洪水で3人死亡。
- ▼アメリカ テネシー州 雷雨と竜巻で変電施設が爆発、炎上。約8万世帯停電、建物数百棟被害。死者不明6人、負傷50人以上。
- ▼スウェーデン スンドビュベリ 14階建マンション建設現場で工事用エレベーターが20m下に落下し地面に激突。死者5人。
- ▼タイ バンコク ナイトマーケットで、料理で使っていた火から火災が発生。負傷1人、約120店舗が全焼。
- ▼中国 北京 地下鉄で列車どうしの追突事故。数日前から断続的に降り続く雪の影響でブレーキが利かなかった。負傷515人。
- ▼チュニジア 世界遺産登録のケルアンの壁の一部が崩落、修復作業員5人死傷。
- ▼ギニア コナクリ 石油貯蔵施設で船から荷下ろし中に爆発。周辺建物に被害。死者不明13人、負傷178人。
- ▼中国 甘粛省 M6.2の地震発生。建物倒壊や亀裂が20万棟以上。死者不明151人、負傷979人。
- ▼中国 黒竜江省 炭鉱の斜坑でトロッコが制御不能で暴走。死者不明12人、負傷13人。
- ▼ベルギー アウデナールデ市 広場に設置された高さ20m、重さ5トンのクリスマスツリーが強風で倒れ、60代女性が下敷きになり死亡、他2人負傷。
- ▼インドネシア スラウエシ州 ニッケル加工工場で、溶鉱炉の修理中に爆発が発生。死者18人、負傷41人。
- ▼韓国 ソウル 23階建マンション3階で火災が発生、ベランダから上階に燃え広がる。死者2人、負傷36人。200人以上避難。
- ▼中国 重慶市 荒地にある深い穴に不法投棄された柑橘類を撤去しようとした作業員6人が死傷。放置により有毒ガス発生か。
- ▼タイ南部 豪雨による洪水が発生、7万世帯以上に影響。死者不明7人以上。

(資料・引用)災害情報 早稲田大学理工学術院総合研究所編集発行、ほか